

所管事務調査

令和5年11月22日

SDGs 未来都市にふさわしい環境政策の推進について
北九州市環境基本計画の改定

環境局 総務課

【**現行の環境基本計画**】

【**前回審議会の承認事項**】

【**次期環境基本計画(案)**】

【**基本理念**】

「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、
未来の世代に引き継ぐ

継承

【**3つの柱**】

- ・共に生き、共に創る
- ・環境で経済を拓く
- ・都市の持続可能性を高める

継承

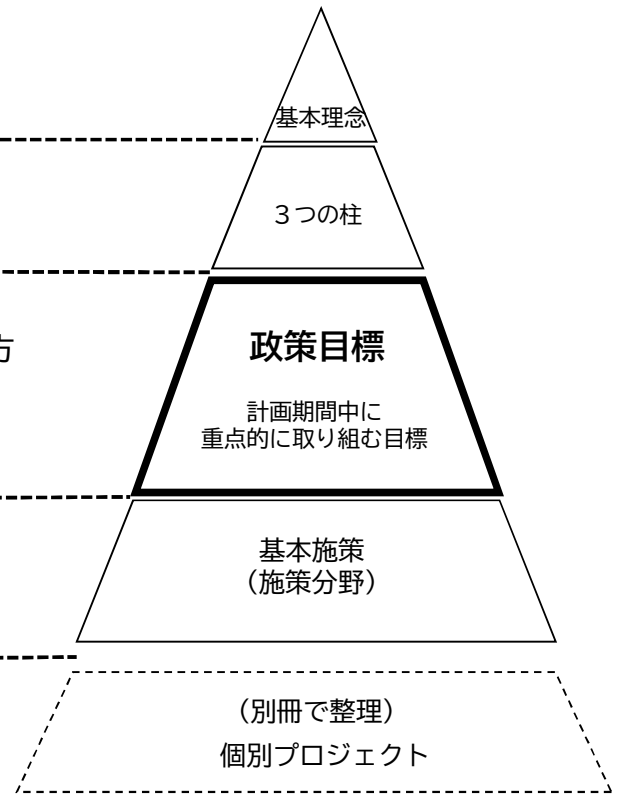
【**政策目標**】

- 1 市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立
- 2 2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現
- 3 世界をリードする循環システムの構築
- 4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

基本的考え方を継承

見直し

見直し



次期環境基本計画の政策目標(案)

※施策を分野別に色分け

【**現行計画**】

【**次期計画**】

<政策目標>

第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立

環境人材の育成

国際協働等

第2 2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現

超低炭素社会を支える
ストック型社会への転換

イノベーションと
産業クラスターの構築

次世代エネルギー拠点の
総合的な形成

アジア規模での
超低炭素社会実現

第3 世界をリードする循環システムの構築

3Rプラスの推進と
資源効率性向上

循環産業都市の形成

化学物質等の適正処理・適正管理

生物多様性の確保

第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上

安全・安心なまちづくり

環境産業育成

国際的なビジネスの推進

<政策目標>

脱炭素社会の実現
(カーボンニュートラルの実現)

循環経済システムの構築
(サーキュラーエコノミーの推進)

生物多様性の確保
(ネイチャーポジティブの実現)

環境保全の推進

環境国際ビジネス拠点化の推進

市民の力でまちの「環境力」を高める

- ・市民の行動変容を促す取組
- ・環境教育・学習
- ・環境情報の発信、啓発
- ・環境に配慮した企業の取組

基本理念と
3つの柱

「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ

共に生き、共に創る

環境で経済を拓く

都市の持続可能性を高める

SDGsへの貢献

新しい4つの
政策目標

脱炭素社会の実現

（カーボンニュートラルの推進）

循環経済システムの構築

（サーキュラーエコノミーの推進）

生物多様性の確保

（ネイチャーポジティブの実現）

環境保全の推進

環境国際ビジネス拠点化の推進

分野横断的な
基本施策

市民の力でまちの「環境力」を高める

第66回北九州市環境審議会の主な意見

政策目標について

- 4つの政策目標について、北九州市の工業都市としての特性から、脱炭素の取組は最重要課題。サーキュラーエコノミーと環境国際ビジネスは、「環境で経済を拓く」という視点から、強みやポジションを活かして、他の都市ではできない、環境で稼ぐことができる街だということを示すことができる。ネイチャーポジティブや環境保全も今後さらに強めていく必要があるので、この4つの政策目標は、北九州の特性をよく踏まえていると思う。
- 政策目標のタイトルは、北九州らしさが伝わるような内容にしてほしい。
- 生物多様性について、北九州市には様々なタネがある。これらをしっかり盛り込んでいくことが必要である。
- 「生物多様性の確保」と「環境の保全」について、それぞれ重要な政策目標だが、大きく捉えると「環境の保全」は「生物多様性の確保」という概念に包含されるのではないかと思う。
- 「環境国際ビジネス拠点化の推進」は、是非強力に進めてほしい。市内の企業が環境国際ビジネスの分野で様々な取組をしている。こうした取組を踏まえて、北九州市が、ものづくり、技術、環境の街であることを、もっと世界に発信していくことが必要である。

政策目標間のつながりについて

- 「生物多様性の確保」は、「環境の保全」だけでなく、「脱炭素社会の実現」、「循環経済システムの構築」とも関連する。「環境国際ビジネス拠点化の推進」も同様である。4つの政策目標で分かりやすく記載することは賛成だが、政策目標が相互に関連、作用することが分かるようにすることが必要である。
- 基本計画には、3つの分野別計画があるが、基本計画の大きな役割として、政策目標間のつながり、相互作用を示すことで、各分野別計画の関連を示すこともある。

「市民の力でまちの環境力を高める」について

- さいたま市や藤沢市の小学校で、最上階の教室は太陽光の熱でエアコンが効かないという状況を受け、工務店の協力・主導で、子どもたち、保護者を交えて、学校の教室の断熱改修に取り組んだという事例がある。環境にいいだけでなく、地元工務店の仕事にもなっているので、紹介したい。
- 企業はSDGsを経営に取り組んでいるが、DX、GXという波も押し寄せている。ビジネス戦略として重要性が高まっており、中小企業の環境力の向上、底上げにも取り組んでほしい。

環境基本計画への期待

- SDGsの観点はとても大切だと思う。環境やSDGsで、市長のいう「稼げるまち」を実現できるということを示してほしい。また、分かりやすい取組で、市民が、環境の取組の一翼を担えるんだということが分かる計画にしてほしい。
- 市内の若い方と話した時、北九州市が環境都市だということは学校で教わったが、日々の生活の中で、環境都市だということをあまり感じたことはない、とのことだった。ちょっと極端だが、例えば、北九州市のスーパーでは、プラスチックやビニールは使わないなど、分かりやすく伝えられる取組があるといいのではないか。北九州市の環境は凄いんだというメッセージが伝わる計画になるといいと思う。

環境基本計画全体について

- 市民に分かりやすい計画ということ考えると、カタカナや専門的な言葉はなるべく使わない方がいい。
- 数値目標について、政策目標別には重要な数値目標があるが、計画全体については、数値目標に縛られるような形にしない方がいいのではないか。

環境基本計画と部門別計画の関係について

- 環境基本計画には3つの部門別計画がある。基本計画と部門別計画をまとめて一つにするということも考えられるが、国の現行の計画体系を考えると、今後も基本計画、各部門別計画という体系になると思う。また、環境基本計画をすべてを網羅した計画にすると、膨大になり、取組の焦点があいまいになる恐れもある。